

委員および一般からの意見

委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘 (2002/1/31 ~ 2002/2/18)

委員からのご意見、ご指摘はありませんでした

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘 (2002/1/31 ~ 2002/2/18)

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
1	奥中久米司 氏	×	2/2	第 8 回猪名川部会を傍聴された感想が寄せられました。 別紙 1 参照下さい
2	亀岡市桂川 改修促進期 成同盟 古谷弘志氏	×	2/4	<p>亀岡市域の歴史は、水害との戦いの歴史である。</p> <p>戦後においても、疲弊した国土に、毎年のように風水害が襲い、昭和 20 年、24 年、25 年、26 年、29 年、32 年、35 年と桂川(保津川)沿川の地域住民の生命、財産を奪ってきたことから、沿川住民として、「亀岡市上桂川逆流防止同盟」を結成し、京都府知事に対し、「保津峡の開削」を要望するべく府庁舎に座り込みを決行した。その後においても風水害は毎年のように地域住民を襲い続けてきた。昭和 46 年に当時の建設省より、「淀川工事实施基本計画」が策定され、桂川については、「日吉ダムを含む上流ダム群と保津峡狭窄部上流河道改修」により河川の氾濫をなくすことで整備を進めることになり、平成 10 年には、上流「日吉ダム」が完成した。「河道改修」については、昭和 57 年出水対応の築堤工事に平成 8 年から京都府において着手された。</p> <p>「亀岡市桂川逆流防止同盟」としては、結成以来河川管理者に対し要望活動を続けてきたが、平成元年から「亀岡市桂川改修促進期成同盟」と名称を変更し現在まで京都府管理区間のみならず近畿整備局及び淀川工事事務所へ要請・要望を行うなど上下流域区別なく改修促進活動を続けている。</p> <p>淀川の治水事業は、上流、下流域がそれぞれバランスのとれた改修計画により行われてきたものであり、下流への流出量をおさえるため、上流沿川地域住民は、自らの血を流し協力してきた。最近になって、「淀川水系流域委員会淀川部会」において、桂川の治水計画が、木津川上流狭窄部岩倉峡と同じような、「遊水池」による下流域への流出量を抑える事が適当であるかのような議論がされていると聞き及んでいる。我々としては、本来桂川の治水計画には、「遊水池」計画はなく、木津川流域と同種のものと考えられていることに対し非常に不満である。また、このような下流大都市域の負担を一方向的に上流域に押しつけるような議論が、上流の意見なくして行われていることは、決して許されるものではない。このような議論の場において、発言の機会が制限されることに危機感をもっている。亀岡市桂川改修促進期成同盟としても機会あるごとに上下流域の河川整備に協力するとともに、過去、何十年、何百年水害と治水の歴史、「痛み」を風化させることなく伝えていく努力をしていきたいと考えている。今後は、上流沿川住民の意見を聞く場を設定されるようお願いする。</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
3	大阪自然環境保全協会 岡秀郎氏	×	2/6	余野川ダムに対するご意見が寄せられました。 別紙 2 参照下さい
4	東野更正氏	×	2/12	会議開催場所についてご意見が寄せられました。 南湖に偏らず北湖の方で開催されるのも住民の関心を深めるのには良い機会だと思います。
5	平山紘一郎 氏	×	2/13	ご案内頂きました2月19日開催の琵琶湖部会の傍聴を希望致します。 意見聴取、会議とも傍聴を希望します。意見は特にありませんが、琵琶湖のスポーツフィッシングの何らかの規制が必要と思います。理由は生態系の維持のためです。
6	片淵ふさ子 氏	×	2/13	淀川源流の一つである琵琶湖に注ぐ野洲川の上流域に、滋賀県は90万リュウベモの産廃最終埋立場を造ろうとする件に異議を唱える環境にこだわっている1甲賀町民です。今まさに、この事業の環境影響評価準備書が作られ、知事の意見書が出されようとしています。管理型ゆえどのような物が捨てられるか知れず、シートが破れたならば地下水汚染はまぬがれません。少しでも汚染を少なくする為の下流域の方々に以下の点を行政に要求していただきたい想いです。 <ol style="list-style-type: none"> 1 周辺住民が施設の建設是非を言う機会が無く、初期に計画アセスをするべきでは。 2 上流にどうしても造るなら、13品種混ぜ込まないで、単一種類のみの保存場所という位置づけをし、他に12箇所造ることで河川への影響を少なくして欲しい。 3 産廃排出事業所は、1日1種類のみとする。産廃運搬業者は、1種類のみを契約し運搬車の中は他の種類を載せてはならないとすることで、循環型社会の構築を進める。 4 埋め立て物の安全性を高める為に汚泥・燃殻・煤塵・飛灰を固形スラグ化する。 5 処分場からの浄化処理水は公共下水道へつなぐ方向を考えているが、下流側として、安易につなぐことで、監視の目が届きにくくなるのでは？と心配します。 6 環境アセスにおいて調査し、評価した人の名前が明示されていない為、評価結果に信頼性を認められない。準備書に汽水に棲む生物が記されており、山の多い地に認められるのはおかしいと、環境審議委員が言ったところ、再調査をして、いませんでした、前のは同定の間違いでしたとなりました。前に調査したの方が正しかったと思います。一つ目の処理場からの処理水は電気伝導率2900と測定されていますから。環境アセスには、調査・評価者の記名をするべき。(そうでないと責任者不在の単なる環境アセスメントにすぎない。) 産廃関係では以上のような事を訴えたいし、他の事では、農業に関し除草剤殺

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				虫剤の使用を減らす取り組みには、何らかのメリットを与えて欲しい。ただ滋賀県では「環境こだわり農産物」の認証制度を作り、農協に進めるように通達したという、妙な事をやっている為（農薬を売る側に農薬を控える事を農家に進めるたって、言いませんよね）実行者がいないようです。又、ゴルフ場については、信楽では障害者が多いと言う人がいます。甲賀町にも、4箇所ありますが、中でも近くのフジスタジアムでは、蛭や他の動物が居ますよ、と環境配慮を誇示している下流に、電気伝導率650程の赤茶色の濁った水を排出しています。先だっては、活性炭の粒が真っ茶になったようなものが上に固まっていた。大阪府・京都府は滋賀県に大金を出していると聞きます。ご自分たちの飲み水の質を向上させるために上流で何が問題点なのかを自らの目で、ワッチングして、県に申し入れをして下さい。机の上で見る検査結果の値になんら問題が無くても、現実にどんな水が排出されているかが問題です。本質を問わない積み重ねが、琵琶湖が綺麗にならず魚に異常を来し、淀川を汚くしている原因になっていると思います。目先の時間とお金に振り回され、未来の子供にとんでもない環境を与えるのでしょうか。叡智ある皆様に期待をしたいところです。
7	藤田政治氏		2/14	琵琶湖水質保全構想についてご意見が寄せられました。 別紙3を参照下さい。
8	蒲生野考現 倶楽部 齒黒恵子氏	×	2/15	大阪の人の多くは琵琶湖を淀川の源流のようなイメージを持っておられるのではないのでしょうか。また、滋賀の人の多くは淀川の下流のことは、遠い存在で、あまり親しみがありません。 水は滋賀の山々から大阪湾の海までつながっています。そこで水を介して人の交流をしていこうと、私が所属する「蒲生野考現倶楽部」では、昨年「里山水紀行プロジェクト」を立ち上げ、琵琶湖ー淀川流域の水と人の交流を進めています。第一回目として、昨年11月3日に京阪神の親子320名に集まっていた。琵琶湖で地引網体験と琵琶湖博物館で琵琶湖学習を行いました。 本年も琵琶湖淀川水系の上流、中流、下流の水と人の交流を進めていきたいと考えています。アイデアや資金支援、いっしょにして下さる方や、団体等があられましたら、お知らせ下さい。
9	山崎栖野氏	×	2/15	琵琶湖に流入する河川の源流現況調査と水質調査の早急実施を強く望む。 琵琶湖の水、化学物質ますます多量流入間違いなし。滋賀県内河川すべて淀川水系、その源流の近くに産廃処分場、ゴルフ場点在、その源流の元、山に目をやれば荒れ放題、内湖からアオコが琵琶湖に流入して居ると聞く。水質の変化はプランクトンの種を変え、魚達の生命にかかわることになる。湖魚の病源を一日も早く手を打たなければと云う思いが頭からはなれない。（全国の河川に病気を送る） 苗アユ出荷 河川のみならず、湖内にもアユの減少は大きいと見て居る。此の原因は根深く、大きな問題と思っている。鮎の減ったことをブラックバスのせいにするの

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				ではなく水質に目を向け、治山、治水を此の時期にきちんとやらないと、水がめ琵琶湖でなく、毒水琵琶湖になるのは時間の問題と心を痛めている
10	関西のダム と水道を考 える会 水野育成氏 水野静氏	×	2/15	中間とりまとめに向けて、具体的な内容を期待しております
11	葭留 竹田氏	×	2/18	最初は、色々な方向に話しが広がっていった良いと思っていましたが、もうそろそろ話しの取りまとめとして、議題に上がったことに対するあり方についての話しを深めて行くべきだと考えますが、方向性がまだ話し合えるところまで来ていないようにも思われます。（それとも各自が主張するだけの話し合いだけでいいのか？）早く結論が出される会議になってゆくようにして欲しい。

淀川系流域委員会

平成14年1月27日第八回諸名川部会に一般傍聴
人堀岡申久様ごめります。

後半の部会議

2) 検討課題(環境等に7.12)

① 小生は田中裕夫委員意見は賛成ごめります。
委員が生態学を研究しいま中が「こ」で
環境、人口問題見直し府県、政令指市、
指定指市、都京、市町村等(環境者農出先村
等)中心といいた。都市計画、又は流域都市
計画目、府県、市町村が環境中心した
所が交付金支払心をせごめり。
府県、市町村は交付金をいそのした関
係長議会、議員、市長、助役、部長、
調査しいて大抵地方検察特別検査部
公訴可ます。

② 工事関係(民間、市町村)ISO規格に
工事事務行駐在しいて調査研究を
可ます。

③ 堀市、流域(大和河一限)公家河全国

的存在が認められる。その原因は堺市環境
事業部、又は河川担当者職務が「~~これ~~」
である。

由縁、府県、市町村、河川課を環境防
災、人口由縁の見過し「~~を~~」
か

④ 元々の地蔵とし「~~し~~」堺市全体「~~し~~」
調査「~~し~~」交付金を研究「~~し~~」
かか「~~て~~」可か。

ホム、ベジお願「~~い~~」可
2014年2月2日



堺市中久米司

2002 年 2 月 6 日

国土交通省近畿地方整備局 様
淀川水系流域委員会 様
淀川水系流域委員会猪名川部会 様

余野川ダムに対する意見

2002 年 1 月 27 日開催 猪名川部会・意見聴取 意見発表内容のまとめとして
高田直俊 (社団法人大阪自然環境保全協会理事、大阪市立大学大学院工学研究科
土木工学専攻)

標記の意見を提出致しますので、関係各位へのご周知を宜しくお願い申し上げます。

最近のダム計画をみると、どれも基本計画高水量が大きすぎるように思います。

そういう意識で、余野川ダムを見ていましたので、12月3日付けで7グループ名で提出しました、余野川ダム計画を批判する意見では、比流量を極端だな、と思いつつも誤読してダムに対する意見を書いたため、間違った意見でご迷惑をお掛けしました。あの部分は削除します。訂正の機会が与えられて幸いです。

しかし、改めてダム計画をみますと、やはり基本計画高水量は大きすぎるように思います。

・主な洪水は、昭和 28 年、35 年、42 年、47 年、58 年、平成元年、11 年などと記録されています。

・余野川合流点の猪名川の基本計画高水量毎秒 3500 トンに対して、(第 7 回猪名川部会説明資料によると) 既往最大洪水は昭和 35 年の毎秒約 2300 トンで、これは毎秒 3500 トンに対して 1.52 倍です。

・また、余野川合流点の猪名川の疎通能力毎秒 1000 トンは、この基本高水から確率 1/4 とされています。これは 4 年間隔の出水になりますが、毎秒 1000 トン以上の出水間隔はもう少し長いと言えます。

・余野川ダムへの導水路計画地点の基本計画高水量は毎秒 260 トンと算出されていますが、この付近の疎通能力は、川幅、川の深さ、河床の粗さ、川の曲がり方から見て毎秒 260 トンはないと思います。この計画流量では導水路流入地点上流部の河川の拡幅が必要になってしまいます。

・余野川沿川は余り昔とは変わっていませんし、田畑は維持され、かつてよりも森林は生長して、流出量の低下もある程度見込めるはずです。また山裾で保水性の良い森林化した放棄田畑も多く見られます。

・また猪名川上流部の市街化は進みましたが、昭和 59 年に一庫ダムができています。これらの洪水による浸水被害が記録されていますが、堤防を水が越えるよりも低平地の内水氾濫が多かったのではないのでしょうか。（第 7 回説明資料によりますと）昭和 28 年の毎秒 1650 トン洪水の 1.5 倍に対する、現状の河川整備状態での推定浸水箇所は、ほぼこれに相当する流量の昭和 35 年毎秒 2300 トンによる実績浸水箇所よりもずっと広範囲になっているのも不思議です。

昭和 45 年頃から河川整備が大規模に進められてきており、またかつての浸水原因である多田地域の塩川合流点付近と余野川合流点上下流の疎通力向上工事が進んでいます。護岸や橋梁基礎工事は、昭和 40 年以前のものとは異なり、しっかりしたものが造られています。それ以前は今のよう日常的に自由に使える建設機械、例えばバックホーが有りませんでした。ほとんどが人力掘削でしたから、根入れが深く流水に強いものは作れませんでした。技術、資材、経済力も劣っていました。

幅広い川では、水深が少し大きくなると流量はそれに比例以上に増えます。私は猪名川と藻川に鳥を見によく行きますが、猪名川を見ますとかなり背の高い中州が目につきます。自然環境の立場からも、川の自然を維持するために、このような普段流れに曝されない、乾いた陸域を出水で冠水するようにすることがむしろ必要で、これらを除くすれば流下能力や河道貯留量はかなり増えるはずで。

猪名川の治水に対しては現行の改修計画を進めていただくのがいいと思います。各地で調整池が根拠不明のまま廃止されていますが、猪名川ではこれを重視しているなど総合治水の考え方が実現しています。

余野川ダムは川を直接せき止めるものでないので、堆砂の問題は避けられる点で、今後のダムのあり方の見本になる計画だと思いますが、出水時に浮遊流下する落葉落枝などが流入し、常時のきれいな水があまり入らないので、水質がどうなるかの検討も必要と思います。ダム湖の上流域には田畑があり、また隣接して「水と緑の健康都市」造成地がおそらくそのままの形でしばらく残り濁水源になる恐れがあります。

余野川自体は猪名川合流点まで、掘り込み型の河川で自身の洪水氾濫にはダムは要らないはずですが、余野川下流部の基本計画高水量は毎秒 400 トンを越えますので、この流量に対しては建前上ダムが必要、ということになってしまいます。余野川の流量は大きくないので、猪名川本川に対するこのダムの治水効果はあまり高くありません。高価で環境へのインパクトの大きいダムの必要性に関して、財政を含む色々な角度からの深い議論を期待します。

琵琶湖水質保全構想について

1・現状

琵琶湖総合開発事業も終わり、5年が経過しようとしている。

琵琶湖の水質はどうかといえば、この10年間依然として変わらない。Pについてみると南湖は0.21ppm、北湖は0.009ppmである。

この間、下水道はどんどん実施されているが、この投資額に比例して琵琶湖の水質がよくなったかといえば、下水道だけの投資では水質改善に寄与する効果は限界に近づいていると考えます。工場、事業所排水は上乘せ条例に基づき厳しくしているが、それでも琵琶湖の水質はよくなる。実績で見ると琵琶湖の水質は、今までのような施策を続ける限り、これ以上よくなるのではないかと考えられます。

今や琵琶湖の水質保全対策は、面整備の対策と洪水の初期における初期排水対策が琵琶湖の水質保全対策として重要ではないかと考えます。

2・改善の方法

対策の最善の方法は、徹底的に汚水を琵琶湖から排除することである。

汚水が琵琶湖に流入すると湖の特性(蓄積し貯留しやがて富栄養化する)を考慮すれば、下水道の建設や工場排水の規制だけでは、2010年まで増え続ける人口、発展する経済を考えると「悪くしないような対策」に終わり「30年代初期の水質に返すこと」は到底達成できないのではないかと考えます。

琵琶湖水質浄化作戦

	下水道
	家庭排水
水質保全	工場、事業所排水
	農業排水
	その他排水
	水質監視体制
	土地利用
湖周辺の保全	河辺、内湖
	河川
調査研究	
学習の推進	

このうち、下水道の進捗とともに家庭排水および事業所排水は取り込まれておりそれなりに整備されている。

琵琶湖にとって水質を保全しようとするれば将来的に問題になるのは「蓄積」であり、なかでもPが重要である。農業排水については面的な広がりを持っているため、この処理が問題となる。

これの抜本的対策として琵琶湖周辺に水質保全水路構想を提案するものであります。

琵琶湖沿岸235kmのうち、汚濁の進んだ南湖周辺にとりあえず計画することにする。法隆寺川、相模川、家棟川を始め汚濁の進んだ都市排水河川、農業排水河川の排水を受ける水質保全水路を建設する。

この建設は、湖の自然環境との調和に配慮しつつ湖岸に沿って建設するもので用地費は0円であり、琵琶湖に堆積するヘドロで覆土することにする。

3・琵琶湖～大和川～寝屋川への導水路建設

このように集めた水を大和川へ導水し、大和川の浄化用水として利用し最後は寝屋川へ分水して、寝屋川の浄化用水として利用するのである。

大和川、寝屋川は都市用水として利用されていない河川である。であるならば琵琶湖の下水処理水または農業排水を利用してこれを大和川まで導水して維持用水として利用すればよいと考える。

湖南中部処理場の水質は現況の大和川の水質およそBOD10ppmよりはるかによい水質で0.9ppmであるから何ら危険性はない。

今仮に、湖南中部処理場を対象として考えてみると、H10年でBOD0.9ppm、COD5.4ppm、P0.5ppm、処理水量は789千m³/dである。大和川の水質は現状でBOD10ppmである。低水流量6m³/sであるから、導水量5m³/sとすると $6 \times 86400 \times 10 + 5 \times 86400 \times 0.9 / (6+5) \times 86400 = 5.9$ ppmに改善される。

寝屋川も同様に水質は改善される